



「特別宣布式」(2012年4月14日、米国・天和宮)

真のお父様は「神様と人類の責任が完結される天の国の憲法が何かといえば、

『天地人真の父母定着』です。それさえ成れば、全てが終わるのです。……

『天地人真の父母定着』、それで全てが終わるのです」(『トウデイズ・ワール

ド・ジャパン』二〇一二年五月号、43ページ)と語っておられました。

その予告どおり、真のお父様は二〇一二年四月十四日、ラスベガスの天和宮で「天地人真の父母定着実体み言宣布宇宙大会を最終完成・完結することを、お父様の前に奉獻します」という「特別宣布式」をされました(同、二

○一二年六月号、19ページ)。

そして、その七日後の同年四月二十一日に韓国・清心平和ワールドセンターで、真のお父様は「天地人真の父母様特別集会」を開催され、次のようにみ言を語つておられます。

「『天地人真の父母定着完了』が、この本(講演文)の題名です。天地人が真の父母となつて定着する教材・教本だというのです。……あなたがたも批評をせず、『この言葉どおりに一度生きてみたい』と考える人が、福を受けて生きることができます。……創造主の資格をもつて、最後に万王の王と父母の先祖の中の先祖となりうる勝利の霸權の栄光の宝座に座る人は、億千万代においてただ一つの夫婦であつて、二つはいません。夫婦が二つですか、一つですか。万国の王たち、偽者たちがなぜこんなに多いのですか。万王の王はお一方です」(KMS中和新聞)二〇一二年四月二十七日号)

「天地人真の父母定着完了」の講演文をもつて挙行されたこの大会で、真のお父様は「栄光の宝座に座る人は、億千万代においてただ一つの夫婦であつて、二つはいません。……万王の王はお一方です」と語られ、天一国の「万王の王」がお一方であることを明らかにされました。しかも、「億千万代においてただ一つの夫婦」と述べられ、それが文鮮明先生・韓鶴子総裁ご夫妻であられることが明言されました。このように、お父様は「天地人真の父母定着」を発表され、「天地人真の父母定着完了」を成し遂げておられます。

以上が、真のお父様が真のお母様と共に、二〇一〇年から二〇一二年にかけて「最終一体」の摂理を歩まれながら、全人類に対して公式的に発表しておられる、文鮮明先生ご自身の「定着完了」に関する認識です。

ところが、UCIを支持する人々が広める金鍾奭著『統一教会の分裂』は、このようなお父様ご自身の認識を無視して、お父様と真のお母様は一体となつておられないという、み言と異なつた「虚偽のストーリー」を創作しています。

(2)『統一教会の分裂』に書かれた「秘密文書」に関するみ言隠蔽

①「最終一体」宣布後の特別宣布式の重要性

『統一教会の分裂』が述べる「創始者は韓鶴子と一体になれなかつた」という主張は、文鮮明先生のみ言の「隠蔽」に基づく策略的な言説であり、誤りです。まず、『統一教会の分裂』の問題となる箇所を以下、引用します。

「（真のお父様は）二〇一〇年二月十九日、自分の宗教的的理想と統一教会の目的、そして絶対者・神様の夢が叶う『天一国』が二〇一三年陰暦一月十三日の『基元節』を期して成されなければならぬと宣言した。また、全統一教会人は基元節に天一国実現の為に責任を果たさなければならぬと強調した。……責任を果たせなければ、二〇一三年陰暦一月十三日は天一国のない基元節になるのである」（『統一教会の分裂』54～55ページ（）のなかの言葉は教理研究院の補足。以下、同様）

「2009・7・12、創始者（注、真のお父様）が韓鶴子を神様の夫人の位置に立てるることはできないと言及する」（同、157ページ。注、この虚偽の主張に対する反論は後述）

「二〇一〇年七月の状況で……創始者はこの日まで韓鶴子と一体になれなかつたことを吐露していた。『創始者と一つになる』という言葉の意味は、韓鶴子が創始者の志に絶対服従することを言い、真の家庭の真なる母として、真のお父様の真なる妻として、人類の前に真の父母としての責任と使命を果たすこと

を言う」（同、178～179ページ）

「創始者は、韓鶴子が（真のお父様）自身と一つになるという約束を根拠に『完全に一体を成した』という宣布をした。秘密文書の約束を守らなければ、創始者のこの宣布は無効になるという意味も含まれている」（同、180ページ）

「創始者が韓鶴子に対する残念な感情……を集中的に表出し始めた時期は、大体二〇〇〇年度末と考えられる。攝理に対する無知、創始者を不信する韓鶴子の態度などに言及しながら、創始者に絶対服従しなければならないと教示した。……韓鶴子が完成したという趣旨の言及後にも、創始者が韓鶴子の未成熟と不信を強く叱責しながら、絶対服従することを言及しているのを考える時、私たちが知ることのできない創始者の苦心があつたに間違いない」（同、245～246ページ）

この『統一教会の分裂』のストーリーは、前項で述べた真のお父様ご自身の認識とは異なつており、「真のお母様はお父様と一体になつていない」というテーマで一貫しています。これは、「虚偽のストーリー」です。

金鍾奭氏は、「真のお母様が完成した」という根拠である「最終一体」をされたというみ言についても、「秘密文書の約束を守らなければ、創始者のこの宣布は無効になるという意味も含まれている」（180

ページ）と、勝手に解釈しています。

真のお父様ご自身は、「最終一体」の宣布の後、天和宮で「最終完成・完結する」という「特別宣言式」をしておられ、さらには「天地人真の父母定着完了」を宣言しておられるにもかかわらず、金鍾奭氏は、真のお母様はお父様に絶対服従せずに歩まれたと論じており、そのことに対してもお父様が「韓鶴子（真のお母様）の未成熟と不信を強く叱責しながら」（254ページ）歩んでおられたのだと、虚偽の主張をしています。

『統一教会の分裂』には、「み言隠蔽」と、自分に都合良くみ言を解釈することによって人々を惑わそうとする「悪意」が込められているのです。

②み言隠蔽に基づく「秘密文書」の悪意の解釈

金鍾奭氏は、前述のように「二〇一〇年七月の状況で……創始者はこの日まで韓鶴子と一体になれなかつたことを吐露していた」と述べます。彼は、その根拠として韓国家庭連合の機関誌『統一世界』二〇一〇年六月号の10ページから11ページのみ言を引用しています。（注、以下の訳文は『統一教会の分裂』に掲載されたもの）

「見なさい。天暦二〇一〇年五月十五日（陽暦六月二十五日）、これがナンバー1です。アリア（ホテル）から出発した最後の日に訓示したものです。……その日が重要です。それがお母さんとお父さんが

最後に宣言した秘密文書です。これは昼夜の神様も知らないものです。天暦二〇一〇年五月十五日午前三時三十五分とは何なのか。その時の出来事を中心、その後の方針を密かにお母さんと約束しました。間違いなく、お母さんがお父さんと一体となつて歩むと約束した時間です。

それまでは、お母さんがお父さんと一つになつて行くという話をしませんでした。神様と世界に公布できませんでした。それを公布した時間が、天暦二〇一〇年五月十五日午前三時二十五分でした。この三時二十五分が重要です。三時は三時代を示し、二十五分は百年を中心として四分の一年を示します。堕落した世界の終幕においてお母様がお父様と神様を中心として約束しましたが、それが天暦二〇一〇年五月十五日午前三時二十五分の出来事でした。それが題目になっています。そして『三十五分は一〇〇の四分の1数に該当し、三時は初不得三（精進すれば成功するの意味）の三時代を代表し、旧約・新約・成約時代の完成・完結・完了の時代を迎え、真のお父様と真のお母様の最終一体圏が完成・完了した全体・全般・全権・全能の時代を奉獻することを表す！』としましたが、ここに全て入るのです。純潔・純血・純愛の完備を見るアリアスカイ（Aria Sky）スタジオで、天暦五月八日（陽暦六月十九日）二十分に発表完結される！ と言いました。全てが終わってお母様と完全に靈界に奉獻することのできる祈祷を捧げた時間です。『完結される、アジュ！』となつてるので終わったのです」（178～179ページ）

『統一教会の分裂』は、真のお父様が語つておられる「秘密文書」とは、二〇一〇年天暦五月十五日

午前三時二十五分に、眞のお母様とお父様が宣言をしたものであり、それはお母さんがお父さんと一緒に、となつて歩むと約束した時間であると解釈します。

金鍾奭氏の欺瞞^{ぎまん}は、彼の著書に肝心の「秘密文書」の具体的な内容が記されておらず、その部分を意図的にカットしていることです。金鍾奭氏が引用した韓国機関誌『統一世界』二〇一〇年六月号の続きの部分には、眞のお父様が「秘密文書」と言われる具体的な内容が記されています。

「三時二十五分にオモニ（お母様）をオモニとして定めます。神様お母様（ハナニムオモニ）、実体のオモニ、眞の父母のオモニ、アボジ（お父様）のオモニ、自分の妻、自分のハルモニ（祖母）……。アボジ（お父様）、自分の夫、カインとアベルの息子一人まで八代男性を踏んで越えられる女性の権威を持たなければ、先生に従つて天国に入れないという理論的な結論です。ここに、該当する文書が全てあります。文書は守らなければならないというのです」（『統一世界』二〇一〇年六月号、12ページ）

二〇一〇年天暦五月十五日午前三時二十五分、文鮮明先生は韓鶴子、總裁を「お母様」として定められ、「最終一体」を宣布しておられます。この部分が「秘密文書」の核心部分です。

金鍾奭氏は、秘密文書の約束を守らなければ「この宣布は無効になるという意味も含まれている」（『統一教会の分裂』180ページ）と述べますが、眞のお父様はそのような言葉を一切語つておられません。金鍾奭氏は「……八代男性を踏んで越えられる女性の権威を持たなければ、先生に従つて天国に入れな

い」という理論的な結論です。ここに、該当する文書が全てあります。文書は守らなければならないといふのです」の部分をもつて、秘密文書の約束を守らなければ「この宣布は無効になるという意味も含まれている」と主張しているのかもしれません、お父様が語られているのは、眞のお母様が先生に従つて天国に入るためには「（お母様が）八代男性を踏んで越えられる女性の権威を持たなければ」ならないので、「三時二十五分にオモニ（お母様）をオモニとして定めます」と述べておられるのであり、文書が守られることを「オモニと定める」条件などとはしていないので。

そして、眞のお父様は、眞のお母様をオモニと定められただけでなく、「天地人眞の父母定着完了」まで宣布しておられるのです。金鍾奭氏の問題点は、その後、お父様が「定着完了」を宣布しておられることを無視して論じている点です。

私たちは二〇一三年天暦一月十三日、眞のお父様がすでに宣布しておられたように、神様の夢であつた「基元節」を迎えることができ、実体的天一国を出発する日を迎えました。その日には、「天地人眞の父母様天一国即位式」「天一国基元節入籍祝福式」が挙行され、天一国の出発が宣布され、同時に「基元節入籍祝福式」に参加した祝福家庭は、天一国に入籍したのです。そして、天一国に入籍した祝福家庭には「基元節天一国国民証」が授与されたのです。

